

1 学校教育目標

【教育目標】

- (1) 一人ひとりの可能性を伸ばし、一人ひとりの夢や目標の実現を支援する。
- (2) 自主・自立の精神を育て、主体的に進路選択ができる能力を育成する。
- (3) Think Globally, Act Locally

【大津校舎】

地域の期待に応える進学校としての充実を図るとともに、3キャンパス制のメリットを生かして多様な教育活動を展開し、グローバルな社会で活躍できる人材を育成する。

- (1) 自ら学び、考え、判断し、挑戦・実行していく力を育む。
- (2) 多様な体験を通して多面的に物事を捉える力を育てることにより、豊かな人間性を育む。
- (3) 国際教育を推進し、コミュニケーション・ツールとしての英語の習熟を図る。

【日置校舎】

地域の期待に応える専門学科を学ぶ学校としての充実を図るとともに、3キャンパスの連携による生徒の自主的活動を充実させ、社会に貢献できる人材を育成する。

- (1) 様々な地域連携活動をとおり、自己肯定感・自己有用感の醸成を図る。
- (2) 学校行事等において自主的活動の充実を図り、人間関係能力の向上を図る。
- (3) 系統的・組織的なキャリア教育の推進により、一人ひとりの夢の実現を図る。

【水産校舎】

海に生き、海に学ぶ専門教育の充実を図るとともに、3キャンパス制のメリットを生かした連携教育活動を通じて、海を核とした産業社会に貢献できる人材を育成する。

- (1) 海に生きるための規律ある行動と体力を身につけさせる。
- (2) 海のスペシャリストとして必要な知識・技能を身につけさせる。
- (3) 生徒一人ひとりを大切に、達成感や感動のある教育活動を実践する。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

【3校舎共通】

- ・県内の高校では初めてとなるコミュニティ・スクールの指定を受けてから4年が経過した。各校舎の特長を生かしながら、地域理解・地域貢献などに積極的に取り組み、「地域とともにある学校づくり」の推進について、学校運営協議会外部委員から高い評価をいただくなど、しっかりした成果が表れている。
- ・生徒会活動や部活動など、3校舎制のメリットを生かした活動が、さらに活性化している。3校舎生徒会が「探究心」のスローガンの下、長門市のラグビーW杯カナダチームホストタウン事業に協力し、カナダの高校生と交流を図ったり、W杯セレモニーの運営に携わったりして、国際理解の深化を図ることができた。また、韓国中馬高校との交流事業では、5年ぶりに本校生徒が中馬高校を訪問し、課題研究やホームステイをとおり交流を行うことができた。部活動では、3キャンパスのスケールメリットを生かし、校舎の垣根を超え多くの生徒が、多様な部活動に意欲的に参加している。
- ・特色ある3校舎の独自教育をさらに推進するとともに、体験乗船や農業体験、野球応援、合同学習発表会、合同スポーツ大会を3校舎合同で実施するなど、学校の一体感の醸成に努めた。学校評価アンケートでは、全生徒の8割以上が各校舎の独自教育に満足しており、7割以上が大津緑洋高校としての一体感を感じている。
- ・学校HPを一新し、スマートフォンにも対応するなどの大幅な改善を図るとともに、保護者向けメールの配信回数を増やすなど、学校の情報発信の質を高める取組を進めた。
- ・インターンシップや進路ガイダンス、大学・企業訪問などを計画的に行い、キャリア教育の充実を図った。地元企業への就職を増やすことが引き続き望まれる。
- ・教員の授業力向上に向け、授業公開週間や研究授業を継続するとともに、小・中学校など異校種とも積極的に交流し、授業改善に役立てることが必要である。
- ・PTA活動では、各校舎の文化祭、農高祭、すいこう祭などの行事において、校舎を超えて参加いただき、相互理解を深めることができた。今後も継続して取り組んでいく。

【大津校舎】

- ・学校運営… コミュニティ・スクールの機能を活用して、地域と連携しながら充実した取組を実施できている。本年度も地域の課題等をテーマとした特色ある教育活動の一層の充実を図り、進路実現につなげる必要がある。
リニューアルしたホームページの活用や「大津校舎通信」の発行、中学校訪問等を通じて積極的に情報発信を行っている。今後は、中学生や保護者等にとって、一層分かりやすく、魅力的なものとなるよう、ホームページ等の改善に取り組み、志願者の増加につなげる必要がある。
- ・学習指導… 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、65分授業を効果的に活用しながら、各教科が積極的にアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善に取り組んでいる。生徒による授業評価アンケート結果においても、授業に対する満足度は高い。本年度は特にICTを活用した授業づくりや学習支援に取り組む、教員の授業力のさらなる向上及び生徒の学力向上を図る必要がある。
- ・生徒指導… 組織的な生徒指導体制のもと、ほとんどの生徒が校則を守り、落ち着いた学校生活を送っている。今後は、情報モラル教育の充実や自転車の交通マナーの向上等に向けて、生徒会を中心とした主体的な活動を一層推進し、規範意識の向上に取り組んでいく必要がある。
いじめ等の未然防止や早期対応に向けて、引き続きスクールカウンセラーや関係機関等とも連携しながら、組織的に取り組んでいく必要がある。
生徒が安心・安全に学校生活が送れるよう、学校医等とも連携しながら、生徒の健康管理及び学校の環境整備に組織的・継続的に取り組んでいく必要がある。
- ・進路指導… 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、課外授業、小論文指導、面接指導等に計画的に取り組んでいる。今後は大学入試改革の動向に引き続き注視しながら、生徒・保護者に的確に情報を提供するとともに、生徒の主体的な進路選択につなげていく必要がある。
- ・その他… グローバルな社会で活躍できる人材の育成に向けて、国際交流員による講演やラグビーの外国人選手との交流、修学旅行でのJICAや外務省訪問の機会を効果的に活用し国際理解教育を推進している。本年度は、諸行事・諸活動の実施内容や方法等について検討していく必要がある。

【日置校舎】

- ・学校運営… 地域との交流、地域を学習のフィールドとした地域連携活動や学校開放は生徒の成長に大きく繋がっており、この活動をリニューアルしたホームページやマスコミを活用して情報を発信することで日置校舎の魅力と学校理解を広げていくことで生徒募集に繋げていきたい。
学校・地域連携協議会について、現在の地域連携活動に合った見直しを行い、より効率的で現実的な活動に繋がるように協議会の組織について検討が必要である。
- ・学習指導… 少人数指導や個別指導、朝学の繰り返しの学習を充実させることで「分かる授業」の取組が着実に実践されており、生徒の学習成績は向上している。今後若手教員の授業力の向上とICTを活用した授業の充実により更なる学習指導の向上が期待できる。
地域資源を活用した題材や地域の課題解決に向けた取組など地域をキャンパスとした日置校舎独自の学習活動により、生徒に強い探求心や問題解決能力を身につけさせていかなくてはならない。
- ・生徒指導… 全体的に基本的な生活習慣が確立されつつあるが、自ら考えて行動できるまでには至っていない。生徒会活動や学校行事など生徒を中心に積極的に計画、実施することで行動力と実践力を身につけさせなければならない。
教育相談・支援体制を充実させ、生徒理解を深め、生徒個々への指導・支援体制を強化する必要がある。また、生徒自身の振り返りや規範意識の向上に向けた研修や講話等を企画し、生徒の自己肯定感、自己有用感、自己指導能力の醸成を図る。
- ・進路指導… 年間指導計画に従い、きめ細かな面談や個別指導などの取組を行い、生徒が希望する進路先を早い段階で決定することができ、進路決定率100%を達成できた。今後も1年次から外部講師の招へいやキャリアガイダンスなど3年間を見通したキャリア教育への様々な取組を充実させていかなくてはならない。
2年次のインターンシップについては、学科や希望進路に関連した業種へのインターンシップが体験できるよう更なる対応が必要である。生徒が早い段階に高い進路目標を段階的に設定できるようキャリアパスポートの有効活用を検討していく。
- ・その他… 保健体育について、健康診断及び事前事後の保健指導の充実により、事後措置における受診率が徐々に上がりつつある。しかし、まだ不十分であるので、継続して指導をする必要がある。

【水産校舎】

- ・学校運営… 地域と連携した活動では、県・市・漁協などと連携した、沿岸漁業後継者育成の取組やアワビの放流と育成場整備の取組、ナルトビエイの駆除作業など、地域の水産業の活性化に貢献するとともに、学習活動・体験活動の充実を図ることができた。また、地元漁協女性部と連携し、商品開発に積極的に取り組み、県水産加工店で、長門市長賞を受賞することができた。こうした特色ある活動を、ICTを活用するなどして、より積極的・効果的に情報発信することが必要である。
- ・学習指導… 学習状況、出席状況ともに良好であったが、基礎学力のさらなる定着に向け引き続き課題がある。資格取得では、専攻科において、目標であった3級海技士の全員合格を果たすとともに、海上保安庁・水産庁に合格し、海上公務員への道を拓いた。今後の生徒の学習意欲の向上に繋げたい。
- ・生徒指導… アンケートや相談活動、情報共有等の充実など、未然防止の取組の強化により、大きな問題行動は減少したが、些細なことで指導する場面が増えており、規範意識の向上に向け、よりきめ細かな指導・支援が必要である。
- ・進路指導… 進路面談や事前指導等の充実により、進学・就職ともに、内定率100%を達成できた。1年次・2年次での指導のさらなる充実をめざす。また、全体の7割以上の生徒が、船舶・水産漁業関係に進学・就職しており、専門高校の特色を生かしている。
- ・その他… 生徒募集では、1学期に県下の中学校を訪問し、生徒募集・学校PRを積極的に行うとともに、2学期末に生徒・保護者向け学校説明会を開催した。一次募集の志願倍率は海洋技術科1.3倍、海洋科学科0.4倍であった。また、地域連携の取組として、長門市の東京オリ・パラ・ホスト事業に協力し、海外の学生とともに、山口県の水産資源について研修し、国際交流を深めた。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

【3校舎共通】

- 学校運営協議会での議論を踏まえながら、長門市唯一の公立高校であり、3キャンパス・5学科、そして寄宿舎を有する本校の特長を生かした、「地域とともにある魅力ある学校づくり」を推進する。
- 開校10周年を迎え、変化の激しい現代社会における、各校舎の使命達成に向け、『新たな10年』を見据えた学校経営ビジョンの策定を行う。
- 各校舎の特長を生かした教育活動を展開するとともに、体験乗船や農業体験に加えて、3校舎が一体となる学校行事を継続・充実させ、校舎間連携教育活動及び学校の一体感の醸成に努める。
- しっかりとした情報発信を図る。特に地域の小・中学校の児童生徒、保護者、教員には創意工夫した情報の発信に努める。
- PTA総会やその他のPTA行事等において、3校舎間の保護者が共通理解・相互理解を深める企画を実施する。
- 全国的な新型コロナウイルス感染症拡大を受け、学校としての行動計画を策定し、青海寮も含め感染症対策の徹底、「密閉・密集・密接」の重なり最大の限回避等を推進するとともに、臨時休業等に対応した生徒の学習機会確保と指導方法の工夫を図る。

【大津校舎】

- コミュニティ・スクールとしての特色ある取組を活用した学校運営の充実
 - ・地域や大学・企業等と協働した課題解決型学習の充実を図ることにより、生徒一人ひとりの進路意識を高めるとともに、進路実現につなげる学校運営を推進する。
 - ・学校ホームページや毎月の「大津校舎通信」等を活用しながら、中学生や保護者、地域の方等にとってタイムリーで分かりやすい情報発信に努め、志願者の増加につなげる。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実
 - ・ICTを活用した授業づくりやオンライン授業の実践方法等について理解を深め、効果的な学習支援を行うことにより、生徒の学習意欲を高め、学力向上を図る。
 - ・新学習指導要領の趣旨を踏まえて、授業改善に積極的に取り組むことにより、教員の授業力の一層の向上を図る。
- 主体的に自らの未来を切り拓く力を育む進路指導の充実
 - ・大学や企業等と連携した体験学習等のキャリア教育を推進することにより、生徒の主体的な進路意識の高揚を図り、進路実現につなげる。
 - ・大学入試改革の動向を注視しながら、生徒が主体的に自らの進路について考えていくことができるよう、系統的・計画的な進路指導を推進する。
- 生徒の主体性を育む生徒指導・保健指導の充実
 - ・自己の行動を自ら律する力の育成に組織的に取り組み、規範意識の向上を図る。
 - ・学校行事や部活動、地域と連携したボランティア活動等の在り方について、状況に適切に対応しながら、生徒の主体性を育めるよう、内容や運営方法等の工夫・改善を図る。
 - ・生徒が安心・安全に学習活動に取り組めるよう、安全面・衛生面の視点から環境整備に努め、委員会活動と一体となった主体的な取組を推進する。
 - ・スクールカウンセラーや関係機関等と連携しながら、きめ細かな個人面談や定期的なアンケートの実施等により、いじめ等の未然防止や早期対応に組織的に取り組む。
- グローバルな社会で活躍できる人材を育む国際理解教育の充実
 - ・中馬高校(韓国)や国際交流員との交流等、行事内容や方法を検討し、「Think Globally, Act Locally」を継続的に実践する。

【日置校舎】

- 地域とともにある学校づくりを推進する。
 - ・学校運営協議会や学校・地域連携協議会をはじめとして関係機関等との協働体制を強化し、学校の課題解決に向けた取り組みを推進する。
 - ・学校の活動を幅広く発信し、家庭や地域への学校理解に努める。
 - ・地域をフィールドとした学習や交流活動を推進し、地域貢献活動を含めた学校開放に努める。
- 分かる授業の実践に努め、学力の向上を図る。〈教務課〉
 - ・生徒の授業評価を反映した授業改善に取り組む。
 - ・全校体制での朝学の実施、繰り返し学習に重点を置き、学力の確実な定着を図る。
 - ・体験的な学習、ICTを活用した学習を取り入れ、生徒の活動意欲を高める。
- 人間関係能力の向上を図る。〈生徒指導課〉
 - ・良好な人間関係を構築するための基盤となる基本的生活習慣の確立を図る。
 - ・3キャンパス制のメリットを生かした体験活動を実践し、3キャンパスの一体感の醸成を図るとともに、他者理解の力を高めていく。
 - ・生徒会を中心とした交流を促進し、協調性やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、生徒の感性を磨く時間の設定に努める。
- ヘルスプロモーションの視点に立った健康教育の充実を図る。〈保健体育課〉
 - ・健康診断及び事前事後の保健指導を充実させ、事後措置における受診率の向上を図る。
 - ・学校生活における環境整備及び安全管理に努め、安心安全な学習環境を提供する。
 - ・規則正しい生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を図る。
 - ・生徒情報の集約・共有を図り、効果的な教育相談を実施する。
- 系統的・組織的なキャリア教育を推進する。〈進路指導課〉
 - ・3年間を見通した進路指導により、望ましい職業観・勤労観を育てる。
 - ・インターンシップや進路ガイダンス、学校・企業見学会を通して、自己理解を深め、進路意識の高揚を図る。
 - ・きめ細やかな面談や個別指導を行い、個々のニーズに対応した進路実現を図る。
- 地域との連携を強化する。〈農業部〉
 - ・「学校・地域連携協議会」や地元の関係機関との連携を強化する。
 - ・6次産業化に向けて、直売所を活用した生産から加工、販売までの一貫した教育を展開する。
- 農業に関する専門的な知識や技術を幅広く習得させる。
 - ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。

【水産校舎】

- 基礎学力の向上及び授業規律の確立
 - ・授業アンケート等を踏まえた、不断の授業改善による基礎基本の定着を図る。
 - ・生徒の実態についての共通理解と協働実践による、毅然とした(授業報告書等)且つ粘り強い指導をめざす。
 - ・本校舎で学ぶ目的意識の確立と、それに基づく各種資格取得や検定合格に向けた取組を推進する。
- 開発的・予防的な生徒指導の取組
 - ・AFPY等を活用した、より良い人間関係づくりとコミュニケーション能力向上に向けた取組を進める。
 - ・生徒会主体の行事の立案や地域行事への積極的参加を通じて、本校教育活動を広く情報発信する。
 - ・学校、家庭、地域の連携を密にし、規範意識の向上によるいじめ等問題行動の未然防止と早期対応を図る。
- キャリア教育の充実による進路指導の推進
 - ・2年生全員へのインターンシップの実施等による、個々の進路に向けた目標の早期設定を促進する。
 - ・生徒の進路希望情報の教員間での共有化と就職・進学希望者に対する十分な情報提供を行う。
- 地域連携(コミュニティ・スクール)の取組
 - ・本校舎の特色を生かした産学公連携を通して、地域の活性化や社会へ貢献する取組をさらに推進する。
 - ・地元漁協女性部との連携をさらに進め、新たな商品開発に挑むとともに、県の「やまぐちハイスクールブランド創出事業」の指定を受け、学科の枠を超えた他の専門高校との協働や県内企業等との連携により、地元の水産加工品の新たな価値の創造を図る。
- 積極的な情報発信
 - ・中学校訪問やHPの充実及びICTの活用、学校説明会等による、保護者・地域・県内中学生への積極的な情報発信を展開する。
- 新型コロナウイルス感染症対策
 - ・校内や寮、実習船における感染症基本対策を徹底し、生徒・教職員の健康を守るとともに、学習機会の保証及び指導方法の工夫(特に実習船「海友丸」について、福岡県・長崎県と連携した、可能な限りの実習船教育の実施や資格取得)に向け、最大限の努力をする。

【生徒会チャレンジ目標】

- 「和」～be a bridge～
- ◆ 和やかな笑顔と深い考えをもち、コミュニケーションを図りながら学校生活を送る
 - ◆ 和の心を大切にし、本校が拠点となり、国際的な視点で様々な交流を行う
 - ◆ 調和を心がけ、学校・地域・広い世界に向けた交流の架け橋となるように努める

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
3 校舎共通						3校舎共通	
総括	3校舎独自教育の充実	・大津緑洋高校3校舎(普通科・農業科・水産科)が独自の教育資源と立地を生かして、各校舎の使命を果たすべく特色ある教育活動を展開する。	学校評価アンケート等における「校舎の特色を生かした教育活動の推進」に係る項目について、肯定的回答が 4 70%以上であった。 3 65～70%であった。 2 60～65%であった。 1 60%未満であった。				
	連携教育活動の充実	・学校行事や生徒会、部活動をはじめとした3校舎の連携協働の推進と学校としての一体感の醸成を促進する。	学校評価アンケート等における「3校舎の連携した教育活動の推進」に係る項目について、肯定的回答が 4 70%以上であった。 3 65～70%であった。 2 60～65%であった。 1 60%未満であった。				
	コミュニティ・スクールの推進	・3校舎の特色を生かし、地域と一体となった教育活動の充実を推進することにより、生徒の好ましい変容を促す。	4 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることが十分にできた。 3 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることができた。 2 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることがあまりできなかった。 1 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることができなかった。				
	いじめ防止対策の推進	・学校いじめ防止基本方針を周知し、開発的・予防的な生徒指導による望ましい人間関係づくりを通して、「子どもをいじめに向かわせない」未然防止の取組を推進するとともに、早期発見・早期対応の取組の確実な実施を図る。	4 開発的・予防的な生徒指導に取り組み、学校適応感を十分に向上させた。 3 開発的・予防的な生徒指導に取り組み、学校適応感を向上させた。 2 開発的・予防的な生徒指導に取り組んだが、学校適応感があまり向上しなかった。 1 開発的・予防的な生徒指導に取り組んだが、学校適応感が向上しなかった。				
	大津緑洋高校の次の10年を見据えた活動	・これまでの取組の検証を基に、新たな10年に向けたビジョンを策定し、大津緑洋高校の未来に向けた基盤づくりに取り組む。	4 取組の検証を行い、新たな10年に向けた基本計画を策定した。 3 取組の検証を行い、新たな10年に向けた基本計画の策定に着手した。 2 取組の検証を行い、課題を見出した。 1 取組の検証を行うに至らなかった。				
	働き方改革の推進	・ノー残業日の徹底や校務支援システムの円滑な運用、在校等時間の削減など具体的な改善策を実施する。	4 時間外在校等時間が月当たり45時間超の教員が平均10%以下であった。 3 時間外在校等時間が月当たり45時間超の教員が平均30%以下であった。 2 時間外在校等時間が月当たり45時間超の教員が平均50%以下であった。 1 時間外在校等時間が月当たり45時間超の教員が平均50%を超過した。				
	新型コロナウイルス感染症対策	・学校としての行動計画を策定し、青海寮も含めた感染症対策の徹底、「密閉・密集・密接」の重なる最大限回避等を推進する。 ・臨時休業に対応した生徒の学習機会確保と指導方法の工夫を図る。	4 感染症対策を徹底し、生徒・教職員に大きな行動変容が見られた。 3 感染症対策を徹底し、生徒・教職員に若干の行動変容が見られた。 2 感染症対策を徹底したが、生徒・教職員に行動変容はあまり見られなかった。 1 感染症対策を徹底できず、生徒・教職員に行動変容はまったく見られなかった。				

大津校舎						大津校舎	
学校運営等	大津校舎	保護者・地域の理解を得ながら、地域の期待に応える学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会等の意見を参考に、学校運営を見直し、改善に取り組む。 ・進路説明会や大津校舎通信等の機会をとらえて、本校の魅力を地域や中学校、保護者へ積極的に情報発信し、志願者数の増加につなげる。 	学校評価アンケート「学校からの情報は保護者・地域に十分に提供されている」の項目において、肯定的回答が 4 70%以上であった。 3 65～70%であった。 2 60～65%であった。 1 60%未満であった。			
		校舎間や地域との連携促進による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・3校舎の特色を生かしながら連携して取り組む学校行事や生徒会活動、研究授業等において、地域との連携・協働を進め、教育活動の充実を図る。 	学校評価アンケート「校舎間や地域との連携が進み、特色ある教育活動が行われている」の項目において、肯定的回答が 4 70%以上であった。 3 65～70%であった。 2 60～65%であった。 1 60%未満であった。			
	総務	PTA活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌・学年・他校舎との連絡・調整を緊密に行いながら、PTA関連の行事等の準備に早期に着手することにより、PTA活動の活性化を図る。 	PTA関連の行事等の準備、連絡・調整について、 4 概ね3週間前に実施できた。 3 概ね2週間前に実施できた。 2 概ね1週間前に実施できた。 1 概ね3日前に実施できた。			
	教務	学習習慣の確立と主体的な学びに対する積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の二極化に対応するため、朝学習や小テスト等を利用して基礎学力を定着させる。 ・生徒一人ひとりが積極的に授業に参加できるよう、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善を図る。 	授業評価アンケート「先生の授業に満足している」の項目において、肯定的回答が 4 80%以上であった。 3 75%以上であった。 2 70%以上であった。 1 70%未満であった。			
		地域や保護者に対する情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急メールの積極的な活用により、保護者への情報発信の充実を図る。 ・大津校舎ホームページのタイムリーな更新により、地域や保護者に対する情報発信を行う。 	ホームページの更新について、 4 平均週1回以上更新し、地域や保護者に積極的な情報発信ができた。 3 平均2週に1回以上更新し、地域や保護者にある程度、積極的な情報発信ができた。 2 平均月に1回程度の更新となり、地域や保護者にあまり情報発信ができなかった。 1 平均月に1回未満しか更新できず、地域や保護者への情報発信が不十分であった。			
		地域の文化への理解と国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・長門学において地元の人材を講師として招聘し、地元への理解をさらに深化する。 ・地域の活性化をテーマとした韓国中馬高校等との交流事業の充実を図り、国際理解教育を推進する。 	長門学や国際交流等の授業や行事の事後評価において、生徒の満足度が 4 80%以上であった。 3 70%以上であった。 2 60%以上であった。 1 60%未満であった。			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立(『形』)	<ul style="list-style-type: none"> ・校門指導や服装・頭髪検査を組織的・定期的に行い、高校生らしい清潔感のある服装・頭髪、着こなし等、生徒心得の遵守に向けた指導の徹底を図る。 ・全校集会等の機会を活用して、時間の厳守や感謝の気持ちと思いやり、その場に応じた挨拶について継続的な指導を行う。 	4 具体的方策に沿った指導により、90%の生徒に生活習慣の確立を促すことができた。 3 具体的方策に沿った指導により、70%の生徒に生活習慣の確立を促すことができた。 2 具体的方策に沿った指導を行ったが、生活習慣の確立を促すには至らなかった。 1 具体的方策に沿った指導を十分に行うことができなかった。				
	規範意識の醸成(『心』)	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室を活用し、傘差し運転、並進等の指導を行い、交通法規の遵守やマナーの向上に努める。 ・情報モラル教室等を行い、携帯電話やSNSの正しい使い方に関する指導の徹底を図る。 ・各学校行事を活用し、大津緑洋高生としての自覚や誇りの醸成を促し社会の一員として道徳心の向上を図る。 	交通マナーや携帯電話の利用等について、 4 何度も指導を受ける生徒はいなかった。 3 何度も指導を受ける生徒は8名以下であった。 2 何度も指導を受ける生徒が9名以上であった。 1 具体的方策に十分取り組むことができなかった。				

生活支援	自己の健康意識の向上と運動習慣の改善・定着	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な身体測定を通じて生活習慣を見直す指導を行い、自己の健康意識の向上を図る。 感染症予防策として、正しい知識の下に適切な行動選択の変容を図る。 スポーツテストや体育的行事を通じて体力の向上に向けた意識の醸成を図る。 	<p>学校評価アンケート「健康や体力の増進に努めている」の項目において、肯定的回答が</p> <p>4 75%以上であった。 3 65%以上であった。 2 55%以上であった。 1 55%未満であった。</p>				
	健診結果に基づく事後措置率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業前に受診状況を踏まえて個別に保健指導を行う。 長期休業前に担任から検診結果を保護者に伝え、受診の協力を依頼する。 受診状況を長期休業後に把握し、担任と連携して個別に保健指導を行う。 学校保健安全委員会の結果を保健委員を通じて生徒へ反映させる。 	<p>事後措置率が</p> <p>4 70%以上であった。 3 60%以上であった。 2 50%以上であった。 1 50%未満であった。</p>				
	教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> SCとの効果的な連携を図り、生徒の学校不応等への対応や未然防止に努める。 教職員の研修会等を通してカウンセリング技術や指導力の向上を図る。 	<p>4 SCとの効果的な連携を図り、計画的に教育相談会議を実施するなど学校不応等生徒等支援の充実が十分深まった。</p> <p>3 SCとの連携を図り、適宜教育相談会議を実施することで学校不応等生徒等への支援の充実が図れた。</p> <p>2 SCとの連携を図り、教育相談会議を実施することで学校不応等生徒等への支援がある程度できた。</p> <p>1 SCとの連携が不十分で、教育相談会議の回数も少なく学校不応等生徒等への支援に課題が残った。</p>				
キャリア支援	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演や職場体験学習を通して、職業観や将来のビジョンを育てるとともに自己の適性について理解を深める。 出前授業や大学訪問を積極的に取り入れ、将来自分が学びたいこと、学ばなければならないことを考察する機会とする。 	<p>学校評価アンケート「職場体験学習や発表会、大学の出前講義などは、進路選択に役立っている」の項目において、肯定的回答が</p> <p>4 80%以上であった。 3 70%以上であった。 2 60%以上であった。 1 60%未満であった。</p>				
	進学指導体制の連携強化と改善	<ul style="list-style-type: none"> 学年やクラス担任との連携を図りながら、生徒の実態とニーズに応じた進学ガイダンスを提供する。 個々のニーズに適した課外授業や個別指導を教員間で連携をとりながら行い、学習効果の向上を図る。 	<p>4 連携を図ることにより、生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等を大いに充実させることができた。</p> <p>3 連携を図ることにより、生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等を充実させることができた。</p> <p>2 連携を図ったが、生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等の充実はあまりできなかった。</p> <p>1 連携を図ることができなかった。</p>				
事務	学校運営の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 事務職員と教員の連携を強化する。 校舎間の予算管理を円滑に行う。 適切な予算執行により、学校教育目標達成を図る。 	<p>4 3つの具体的方策が十分に達成されている。</p> <p>3 2つの具体的方策が十分に達成されている。</p> <p>2 1つの具体的方策が十分に達成されている。</p> <p>1 どの具体的方策も十分に達成されなかった。</p>				
	接遇の向上	<ul style="list-style-type: none"> 電話対応や来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。 	<p>電話対応や来客等の接遇が</p> <p>4 大幅に向上した。 3 向上した。 2 あまり向上しなかった。 1 全く向上しなかった。</p>				

日置校舎				日置校舎												
学校運営等	日置校舎	地域とともにある学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会や学校・地域連携協議会をはじめとして関係機関等との協働体制を強化し、学校の課題解決に向けた取り組みを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 地域連携活動の見直しと検証を大いに実施することができた。 3 地域連携活動の見直しと検証を概ね実施することができた。 2 地域連携活動の見直しと検証をあまり実施できなかった。 1 地域連携活動の見直しと検証をまったくできなかった。 												
			<ul style="list-style-type: none"> ・学校の活動を幅広く発信し、家庭や地域への学校理解に努める。 	<table border="1"> <tr> <td>HPの更新</td> <td>新聞掲載</td> </tr> <tr> <td>4 30回以上</td> <td>20回以上</td> </tr> <tr> <td>3 25回以上</td> <td>15回以上</td> </tr> <tr> <td>2 20回以上</td> <td>10回以上</td> </tr> <tr> <td>1 20回未満</td> <td>9回未満</td> </tr> </table>	HPの更新	新聞掲載	4 30回以上	20回以上	3 25回以上	15回以上	2 20回以上	10回以上	1 20回未満	9回未満		
		HPの更新	新聞掲載													
4 30回以上	20回以上															
3 25回以上	15回以上															
2 20回以上	10回以上															
1 20回未満	9回未満															
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域をフィールドとした学習や交流活動を推進し、地域貢献活動を含めた学校開放に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 年間の学校来場者数が6,000人以上であった。 3 年間の学校来場者数が5,500人以上であった。 2 年間の学校来場者数が5,000人以上であった。 1 年間の学校来場者数が5,000人未満であった。 														
学校運営等	教務	分かる授業の実践に努め、学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業評価を反映した授業改善に取り組む。 	授業内容に対する理解度(授業アンケートの項目で、「授業のポイントがよくわかる」)が、 <ul style="list-style-type: none"> 4 3.9ポイント以上 3 3.8ポイント以上 2 3.7ポイント以上 1 3.7ポイント未満 												
			<ul style="list-style-type: none"> ・全校体制での朝学の実施、繰り返し学習に重点を置き、学力の確実な定着を図る。 	朝学確認テストで、70点以上の生徒が、 <ul style="list-style-type: none"> 4 全生徒の85%以上 3 全生徒の80%以上 2 全生徒の75%以上 1 全生徒の75%未満 												
			<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習、ICTを活用した学習を取り入れ、生徒の活動意欲を高める。 	授業アンケートの項目で「先生が準備する教材は解りやすく工夫されている」と、先生方へのアンケートで「ICTを利用して授業を行った割合」が、 <ul style="list-style-type: none"> 4 アが3.7ポイント以上で、イが3割以上であり、作業的な学習活動がある。 3 アが3.7ポイント以上で、イが3割未満であり、作業的な学習活動がある。 2 アが3.7ポイント未満で、イが3割以上である。 1 アが3.7ポイント未満で、イが3割未満である。 												
生活支援	生徒指導	人間関係能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な人間関係を構築するための基盤となる基本的生活習慣の確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 基本的生活習慣の確立が十分図られた。 3 基本的生活習慣の確立が図られた。 2 基本的生活習慣の確立がやや図られた。 1 基本的生活習慣の確立が図られなかった。 												
			<ul style="list-style-type: none"> ・3キャンパス制のメリットを生かした体験活動を実施し、3キャンパスの一体感の醸成を図るとともに、他者理解の力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 3キャンパスの一体感の醸成が図られ、他者理解の力を高めることができた。 3 3キャンパスの一体感の醸成が図られ、他者理解の力をやや高めることができた。 2 3キャンパスの一体感の醸成がやや図られ、他者理解の力をやや高めることができた。 1 3キャンパスの一体感の醸成を図ることができず、他者理解の力をやや高めることができなかった。 												
			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした交流を促進し、協調性やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、生徒の感性を磨く時間の設定に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 生徒の資質向上が十分図られた。 3 生徒の資質向上が図られた。 2 生徒の資質向上がやや図られた。 1 生徒の資質向上が図られなかった。 												
生活支援	保健体育	ヘルスプロモーションの視点に立った健康教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断及び事前事後の保健指導を充実させ、事後措置における受診率の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 健康に関心を持ち、事後措置における受診率が75%以上であった。 3 健康に関心を持ち事後措置における受診率が65%以上であった。 2 事後措置における受診率が50%以上であった。 1 事後措置における受診率が50%未満であった。 												
			<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における環境整美及び安全管理に努め、安心安全な学習環境を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 学校環境の美化・安全管理が徹底された。 3 学校環境の美化・安全管理が図られた。 2 学校環境の美化・安全管理があまり図られなかった。 1 学校環境の美化・安全管理が図られなかった。 												
			<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が80%以上であった。 3 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が60%以上であった。 2 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が50%以上であった。 1 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が50%未満であった。 												
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の集約・共有を図り、効果的な教育相談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 生徒情報の集約・共有を図り、効果的な教育相談を実施できた。 3 生徒情報の集約・共有を図り、教育相談を実施できた。 2 教育相談体制が、うまく機能しなかった。 1 教育相談体制が、機能しなかった。 													

キャリア支援	進路指導	系統的・組織的なキャリア教育を推進する。	・3年間を見通した進路指導により、望ましい、職業観・勤労観を育てる。	4 進路行事が進路選択に役立っているとの回答が80%以上である。 3 進路行事が進路選択に役立っているとの回答が70%以上である。 2 進路行事が進路選択に役立っているとの回答が60%以上である。 1 進路行事が進路選択に役立っているとの回答が60%未満である。				
			・インターンシップや進路ガイダンス、学校・企業見学会を通して、自己理解を深め、進路意識の高揚を図る。	4 2年修了時に進路希望先が80%以上決まっている。 3 2年修了時に進路希望先が70%以上決まっている。 2 2年修了時に進路希望先が60%以上決まっている。 1 2年修了時に進路希望先が50%以上決まっている。				
			・きめ細やかな面談や個別指導を行い、個々のニーズに対応した進路実現を図る。	4 進路決定率が100%達成できた。 3 進路決定率が98%以上達成できた。 2 進路決定率が96%以上達成できた。 1 進路決定率が96%未満であった。				
農業	地域との連携を強化する。	・学校・地域連携協議会や地元の関係機関との連携を強化する。	4 延べ数で100団体以上の連携と交流を図ることができた。 3 延べ数で80団体以上の連携と交流を図ることができた。 2 延べ数で60団体以上の連携と交流を図ることができた。 1 延べ数で60団体未満としか連携と交流を図ることができなかった。					
		・6次産業化の基礎を築くために、直売所を活用した教育を展開する。	4 直売所の来客者総数が1,400人以上であった。 3 直売所の来客者総数が1,200人以上であった。 2 直売所の来客者総数が1,000人以上であった。 1 直売所の来客者総数が1,000人未満であった。					
	農業に関する専門的な知識や技術を幅広く習得させる。	・資格取得を推奨し、学習意欲の向上を図る。	・2学年全員受検の日本農業技術検定3級 4 合格率が60%以上に達した。 3 合格率が50%以上に達した。 2 合格率が30%以上に達した。 1 合格率が30%未満であった。					
事務	学校運営の活性化	・事務員と教員の連携を強化する。 ・校舎間の予算管理を円滑に行う。 ・適切な予算執行により、学校教育目標達成を図る。	4 3つの具体的方策が十分に達成されている。 3 2つの具体的方策が十分に達成されている。 2 1つの具体的方策が十分に達成されている。 1 どの具体的方策も十分に達成されていない。					
	接遇の向上	・来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。	4 来客等の接遇が大幅に向上した。 3 来客等の接遇が向上した。 2 来客等の接遇があまり向上しなかった。 1 来客等の接遇が全く向上しなかった。					

水産校舎							水産校舎	
学校運営等	水産校舎	地域連携の充実	<p>・水産校舎の特長を生かしながら、地域の企業、団体や異校種の学校等と連携した諸活動の目的を明確にした上で計画的に実施し、生徒の教育活動の質の向上を図る。</p>	<p>年度初めに年間計画を立案し、その取組をとおした、「学校評価アンケート」における、生徒の「地域連携教育の意義」の肯定的回答が、</p> <p>4 90%以上に達した。 3 70%以上であった。 2 50%以上であった。 1 50%に達しなかった。</p>				
	総務	円滑な業務遂行	<p>・十分な準備と確認を徹底する。 ・月一回以上、校舎内の総務課会議を開催する。</p>	<p>4 行事等に応じて、毎月1回以上総務課会議を行い、準備が適切にできた。 3 行事等に応じて、年間6回程度総務課会議を行い、準備が適切にできた。 2 行事等に応じて、年間3回程度総務課会議を行い、準備が適切にできた。 1 行事等に応じて、年間3回程度総務課会議を行ったが、準備を円滑に行うことができなかった。</p>				
	教務	基礎学力の向上	<p>・授業規律を確立するとともに、担任、学年主任、他の分掌や各科と連携を行い、欠点保有者を減少させる。また、定期考査後に欠点2科目以上保有する生徒に対して特別指導を行う。</p>	<p>4 欠点保有者数が昨年度と比較して20%以上減少した。 3 欠点保有者数が昨年度と比較して10%以上減少した。 2 欠点保有者数が昨年度と比較して同程度であった。 1 欠点保有者数が昨年度と比較して増加した。</p>				
生活支援	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<p>・TPOに応じた身だしなみの徹底を図りながら、生徒の自己指導力を涵養させる。 ・服装、頭髪などの風紀検査を実施し段階的な指導を実践していく。</p>	<p>4 頭髪服装検査での再検査率が全体の5%未満であった。 3 頭髪服装検査での再検査率が全体の10%未満であった。 2 頭髪服装検査での再検査率が全体の15%未満であった。 1 頭髪服装検査での再検査率が全体の15%以上であった。</p>				
		規範意識の向上	<p>・生徒への日々の声掛け、教員間の情報共有を密にしながら早期発見、早期対応を心掛け、問題行動の未然防止に努める。</p>	<p>4 問題行動、指導を要する行動がほぼ皆無であった。 3 昨年度より問題行動、指導を要する行動が減少した。 2 昨年度より問題行動は減少したが、指導を要する行動についてはあまり変わらなかった。 1 昨年度より問題行動、指導を要する行動が増加した。</p>				
	保健体育	基礎体力の向上	<p>・学校行事や部活動を通して、体育授業との連携を図り、体力の向上に繋げていく事により、運動に興味関心を持たせ、自ら体力向上を実践する態度を養う。(コロナ対策により大多数の生徒が運動不足のため体力が低下している、徐々に回復させることが必要で、授業の導入段階で体づくり運動を工夫し取り入れる。)</p>	<p>4 体力向上に80%以上繋ぐことができた。 3 体力向上に70%以上繋ぐことができた。 2 体力向上に60%以上繋ぐことができた。 1 体力向上に60%未満であった。</p>				
		健康意識と治療率の向上	<p>・保健面談などを通して自己の健康に関心を持たせるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて、免疫力の向上と行動変容(健康習慣の育成)を目指す。また、クラス担任や進路、保護者と連携し、治療率の向上を図る。</p>	<p>4 治療率を70%以上達成した。 3 治療率を60%以上達成した。 2 治療率を50%以上達成した。 1 治療率が50%未満であった。</p>				
		寮生の自主的な活動と自治能力の育成	<p>・教員主導ではなく寮役員を中心に、寮生主体の自治ができるよう定期会議を行う。</p>	<p>4 月に1回のペースで会議を開催し、舎監と生徒の連携が充分にとれた。 3 月に1回のペースで会議を開催できたが、舎監と生徒の連携に課題が残った。 2 月に1回のペースで会議を開催できたが、舎監と生徒の連携がとれなかった。 1 月に1回のペースで会議を開催できなかった。</p>				
寮務	寮内清潔保持の確立	<p>・日常の清掃がきちんとできるように、掃除方法の確認や掃除用具の管理を徹底する。</p>	<p>4 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に寮全体で取り組めた。 3 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に舎監全体で取り組めた。 2 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に寮務課で取り組めた。 1 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除が実施できなかった。</p>					

キャリア支援	進路指導	進路目標の早期設定 ・生徒の進路希望情報を教員で共有する。(1学年:1月、2学年:11月、3学年:5月)	4 面談等の実施回数が4回以上であった。 3 面談等の実施回数が3回であった。 2 面談等の実施回数が2回であった。 1 効果的な面談等が実施できなかった。				
		進路希望の実現 ・3年生の就職・進学希望者に対して、十分な情報提供を行い、希望先への内定・進学をめざす。	4 内定率が90%以上であった。 3 内定率が80%以上であった。 2 内定率が70%以上であった。 1 内定率が70%未満であった。				
水産	海洋技術	目的意識の育成 実社会で役立つ免許取得をとおして実践的な知識、能力、技術、技能を涵養する。そのため、海技士資格取得及び漁船・漁業就業者支援を進める。	4 職業教育技術顕彰の取得者が7人以上であった。 3 職業教育技術顕彰の取得者が5人以上であった。 2 職業教育技術顕彰の取得者が3人以上であった。 1 職業教育技術顕彰の取得者が1人以下であった。				
	海洋科学	産学公連携を通して、地域の活性化や社会へ貢献する取組の実践 ・企業、関係団体等との連携により、教育内容の深化を目指す。	4 5団体以上と連携活動ができた。 3 4団体と連携活動ができた。 2 3団体と連携活動ができた。 1 連携活動した団体はなかった。				
		海洋科学科の維持、発展 ・オープンキャンパス、ホームページ等を使い、教育内容を知ってもらい、定員の充足の向上を目指す。	4 入試倍率が、1.0倍を超えた 3 入試倍率が、0.8倍を超えた。 2 入試倍率が0.5倍を超えた。 1 入試倍率が、0.5倍を下回った。				
	専攻科	専攻科生として知性の育成と専門知識と技術の習得 ・将来の船舶職員としての自覚にたつて、自ら学ぶ意識の向上と自ら問題を解決する力を養い、企業が求める人材の育成に努める。 ・専攻科2年生全員の三級海技士の免許習得を目指す。	4 進路目標を全員が達成できた。 3 進路目標を8割の生徒が達成できた。 2 進路目標を半数以上の生徒が達成できた。 1 進路目標を殆どの生徒が達成できなかった。 4 全員が三級海技士の資格を取得した。 3 8割の生徒が資格の取得ができた。 2 半数以上の生徒が資格の取得ができた。 1 殆どの生徒が資格取得できなかった。				
事務	学校運営の活性化 ・事務職員と教員の連携を強化する。 ・校舎間の予算管理を円滑に行う。 ・適切な予算執行により、学校教育目標の達成を図る。	4 3つの具体的方策が十分に達成されている。 3 2つの具体的方策が十分に達成されている。 2 1つの具体的方策が十分に達成されている。 1 どの具体的方策も十分に達成されていない。					
	接遇の向上 ・来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。	4 来客等の接遇が大幅に向上した。 3 来客等の接遇が向上した。 2 来客等の接遇があまり向上しなかった。 1 来客等の接遇が全く向上しなかった。					

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

【3校舎共通】

【大津校舎】

【日置校舎】

【水産校舎】

6 次年度への改善策

【3校舎共通】

【大津校舎】

【日置校舎】

【水産校舎】